

同 志 社 大 学

2009 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010 年 3 月 13 日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	教授	菊田千春
研 究 題 目	日本語の歴史（古典語から近代語への変化）の非派生的言語理論による検討	
研 究 成 果 の 概 要	<p>日本語の上代・中古・近代への発展、言語変化について、特に、文法化と格システムの変遷という観点から研究した。文法化については、これまでの研究に続き、複合動詞のうち「てみる」をとりあげた。「てみる」の意味変化の中には、本来の「てみる」の意味制約に反した用法が成立しているものがあるが、これを主体化という視点で分析することで、うまく説明できると考えた。また、格システムについては、この数年、生成文法の中で提案されるようになった、上代日本語は活格システムを持っていたという新しい仮説に対し、それを批判的に研究した。この研究成果にもとづき、現在、「「てみる」の文法化」と「上代の主格と属格の問題再考」という表題の論文を執筆している途中である。</p>	